ミモザの季

田谷　鋭歌集

現代短歌全集 30

ミモザの季

田谷 鋭歌集

短歌新聞社

ミモザの季（とき）　現代短歌全集30

昭和63年5月23日発行

著者　田谷　鋭
発行人　石黒清介
印刷　協同印刷KK
発行所　短歌新聞社
〒166 東京都杉並区高円寺南4-43-9
振替口座 東京 5—21683
電話 03(312)9185

1092—000398—4362　定価 1800円

目次

昭和五十一年　七
養痾家常　一八
草創の人　二三
滝　三〇
石造の池　三六
恵那の町　四四
独活の芽　五三
浅間社
昭和五十二年
夭折の友　五五
風は来て　六〇
油火　六六
不安の雲　七七

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

伊豆山神社　九八
多摩川羽村の堰　一〇一
草の花・木の花　一〇七
武蔵龍穏寺　一一八
湯島界隈・他　一二二
昭和五十三年
去年今年　一二二
千本松原　一二一
秋川渓谷　一二四
羽　織　一二七
三石山　一二九
ミモザの季　一三二
海の朝日　一六〇

略　歴　一六三
あとがき　一六五

著者近影　稲葉正作氏

ミモザの季

養痾家常

いくたびか風邪に悩みし猛き冬逝くにかあらむ梅白く咲く

熱病める日々に好みてわが食みしさくらの酸(す)
漬(づけ)ほのか紅きを

病みがちに生きて桜のはな食ぶる現(うつつ)もあはれ
野の鳥に似て

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

家出でて歌つくらんと図りゐし二月尽日雨すさび降る

春知らすはやての雨をともなひて庭にすさべば暗しわが家

花白き枝横ざまの庭の梅あらしの雨に幹ごと
揺るる

ごろつきの端役も演じ生きてゆくテレヴィの
甥に現前(まさか)に会はず

幼き日優しく直き甥なりき三十路の面わ画面
にさらす

ささやけき配役もまた大切に日々すこやけく
あれよ裕君

欠けし歯がほのかに保つ腐臭ありたぐさにし
つつ生をあはれむ

大年におとなふ慣ひ欠きしこと思ひてわたる
春の真間川

君が葬(さう)終へきてひとり歩むなる城ある街の冬の鋪道(いしみち)

初井しづ枝氏葬儀帰途

葬礼の返しに賜びしハンカチの清きを使ふ旅来し我は

二の丸のあとの枯芝かびろきに球投げあそぶ
みな男の童(わらは)

亡き人の桜の歌のあざやけきくれなゐ思ひ冬
木みち行く

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com